

こどもと健康

NO・160-2 2015・9・28

感染症情報について

小児科医にとって今どんな病気が流行しているのか、感染症情報は診療する上でとても大事なものです。 当院でも診察室に毎週、感染症情報を掲示していますが、その情報源をお話ししましょう。

厚生労働省の一組織に国立感染症研究所があり、はしか、インフルエンザやデング熱、MERS コロナウイルス感染症などの情報をこの中の感染症疫学センターが発表します。 これらの情報は全国の小児科定点（3135か所、当院もそのひとつです）、インフルエンザ定点（当院を含め、4910か所）と全国の基幹病院473か所から毎週月曜から日曜までの1週間に受診した患者数を集計して定点把握しています。 その他、眼科定点、性感染症定点があります。 はしか、風疹、デング熱、新型インフルエンザ、脳炎などは医療機関が必ず届ける全数把握の疾患があります。

大阪府では9月7日～13日の第37週では第1位が感染性胃腸炎750例、定点当たり3.75、第2位は手足口病、第3位溶連菌感染症、以下RSウイルス感染症、ヘルパンギーナとなっています。インフルエンザは6例、定点当たり0.02と流行の兆しはありませんが、沖縄県では早くも流行が始まり、関東でも学級閉鎖がありました。 このように、我々にとってはどこでどんな病気が流行しているか、流行状況の把握に重要なツールとなっています。

全数把握の疾患を見ると、全国でO-157をはじめとする腸管出血性大腸菌感染症は131例、今年になって（累計）2758例、デング熱は9例（累計200例）、全例感染地域は外国で昨年のような国内感染例はありません。 急性脳炎は3例（累計358例）、侵襲性インフルエンザ菌感染症はヒブワクチンの接種により髄膜炎例は98%減少したとは言え、4例（累計175例）報告されています。 侵襲性肺炎球菌感染症は12例（累計1606例）でしたが、ワクチンに含まれない型によるものが大部分です。 乳児のワクチン接種率は95%程度となっていますが、高齢者（堺市では65歳以上は公費負担があります）の接種率が低く、高齢者の肺炎が多いようです。 その他、累計では腸チフス22例、パラチフス24例、マラリア33例、つつが虫病81例、破傷風81例、日本脳炎1例など皆さんが一度は名前を聞いたことがある疾患も報告されています。今年3月28日にWHOから日本から排除されたと認められた「はしか」は累計29例、一昨年に1万5千人発症してその後先天性風疹症候群が45例発生した風疹も今年は僅か129例となっています。

休診のおしらせ

◎ 10月10日（土）午前11時で診療は終了

◎ 10月17日（土）学会出席の為、休診 します。

RSウイルス感染症の流行始まるか？

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。RSって何？と思われる方も多いでしょう。Respiratory Syncytial の略で要するに風邪のウイルスの一つです。このウイルスの感染力は強く、保育所を中心に流行します。年長児以上は鼻カゼ程度でおわるケースもありますが、乳児が罹ると重症化することがあります。インフルエンザウイルスと同じく、冬のウイルスですが、ここ数年は9月から流行しており今年も9月になって全国的に患者数が増えてきました。潜伏期は4～5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴います。乳幼児特に、6ヶ月未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして高熱も出て呼吸数も増し、息苦しくなることがあります。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。乳児は急速に気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎となることがあるので、注意が必要です。ありふれたウイルスですので、1歳までに半分、2歳までに殆んどの子が一度は感染を受けますが、初感染の時に最も症状が強く出ると言われます。何度でも罹患しますが、年長児になると次第に症状は軽くなり、鼻カゼ程度で終わる子もいます。お母さんからの免疫移行がない為、お母さんの鼻カゼから新生児が罹患して重症化することがあります。未熟児や先天性心疾患、慢性肺疾患の乳児には重症化を予防する為、抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体（シナジス）の注射を流行期の秋から春にかけて月1回注射して感染を予防することが出来ます。

インフルエンザと同じく飛沫感染をしますが、経口感染もあって赤ちゃんはなんでも口に入れますので、注意が必要です。感染の予防にはうがい、手洗いとアルコールによる消毒です。風邪をひいたら、咳エチケットを守り、特に赤ちゃんが口に入れるおもちゃやドアノブ等を消毒しましょう。家庭に乳児がいる場合は家族が鼻カゼ程度でも注意が必要です。

大阪府の感染症サーベイランスでは8月24日からの第35週では第7位にランクしており、ここ2週間連続増加しており、今後注意が必要です。全国の年齢別では0歳児が78%を占めます。寒くなるにつれて増加し、例年、年末に流行のピークとなり、春まで流行が続きます。RSウイルスの迅速検査がありますので、ヒューヒュー、ゼーゼーを伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

インフルエンザワクチンの予約開始！

10月1日からインフルエンザワクチンの予約の受付を始めます。携帯電話、パソコンから下記アドレスにアクセスして予約をお願いします。13歳未満は2回接種ですので4週間隔（3～5週で可）で2回とも予約して下さい。受験生の方には2回接種をお勧めしています。年内に接種を終了するようにしましょう。今シーズン、WHOの勧告により日本でも3価ワクチンから4価ワクチンに強化されました。それに伴い、ワクチン納入価が500円余り値上げされましたので、当院でも以下の通り接種料金を改定させていただきます。

6か月以上3歳未満は初回3000円、2回目2500円、3歳以上は初回、2回目共3000円とします。65歳以上の堺市民は1500円です。

確保したワクチンが無くなり次第、受付は一旦中止します。ご不明な点はホームページ、受付まで。電話による予約も可能です。

<http://0722977771.com/i/>

かたぎり小児科のホームページ

<http://www.katagiri-shounika.com> か, 堺市 かたぎり小児科